

基本計画書

基本計画																																																									
事項		記入欄							備考																																																
計画の区分		研究科の専攻の設置																																																							
フリガナ設置者		コリツダ`イ`ケウジン ヤマシダ`イ`ク 国立大学法人 山梨大学																																																							
フリガナ大学の名称		ヤマシダ`イ`カ`イ`クイン 山梨大学大学院 (Graduate School, University of Yamanashi)																																																							
大学本部の位置		山梨県甲府市武田4丁目4-37																																																							
大学の目的		豊かな人間性と倫理性を備え、広い知識と深い専門性を有して、地域社会・国際社会に貢献できる人材を養成する教育・研究を行う。																																																							
新設学部等の目的		地域の学校の課題に即した学校改善・授業改善の構想力・実践力を育成するとともに、教育に関する高度の実践的専門性と教育実践を具体的な場で創成しリードする力を育成することを目的とする。																																																							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	教育人間科学部 14条特例の実施 教職大学院																																																
	教育学研究科 教育実践創成専攻 (教職大学院) (Advanced Studies on Transforming Educational Practice, Graduate School of Education) 計	年 2	人 14 14	年次人 —	人 28 28	教職修士 (専門職)	年月 第年次 平成22年4月 第1年次	山梨県甲府市 武田4丁目 4-37																																																	
同一設置者内における変更状況(定員の移行, 名称の変更等)		<p>・平成22年4月 大学院教育学研究科(修士課程)を次のとおり改組予定 (平成21年5月事前伺い書類提出済)</p> <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center;">(改組前)</td> <td colspan="4" style="text-align: center;">(改組後)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">教育学研究科 (修士課程)</td> <td style="text-align: center;">入学定員</td> <td style="text-align: center;">教育学研究科 (修士課程)</td> <td style="text-align: center;">入学定員</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">学校教育専攻</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">教育支援科学専攻</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">障害児教育専攻</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>教科教育専攻</u></td> <td style="text-align: center;"><u>33</u></td> <td style="text-align: center;"><u>教科教育専攻</u></td> <td style="text-align: center;"><u>22</u></td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">42</td> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">28</td> <td colspan="4"></td> </tr> </table>								(改組前)				(改組後)				教育学研究科 (修士課程)	入学定員	教育学研究科 (修士課程)	入学定員					学校教育専攻	6	教育支援科学専攻	6					障害児教育専攻	3							<u>教科教育専攻</u>	<u>33</u>	<u>教科教育専攻</u>	<u>22</u>					計	42	計	28				
(改組前)				(改組後)																																																					
教育学研究科 (修士課程)	入学定員	教育学研究科 (修士課程)	入学定員																																																						
学校教育専攻	6	教育支援科学専攻	6																																																						
障害児教育専攻	3																																																								
<u>教科教育専攻</u>	<u>33</u>	<u>教科教育専攻</u>	<u>22</u>																																																						
計	42	計	28																																																						
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				修了要件単位数																																																			
	教育学研究科 教育実践創成専攻 (教職大学院の課程)	講義 科目 6	演習 科目 15	実習 科目 2	計 科目 23	単位 46																																																			

教 員 組 織 の 概 要	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員			
			教授	准教授	講師	助教	計			助手	
			人	人	人	人	人	人		人	
新 設 分	教育学研究科 教育実践創成専攻 (教職大学院の課程)		7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)	教育学研究科 (修士課程)の 授業は、教育人 間科学部の教員 が担当する。	
	計		7 (7)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)		
既 設 分	教 育 学 研 究 科 * 改 組 前	学校教育専攻 (修士課程)	8 (8)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (0)	医学工学総合教 育部(修士課程) の授業は、医学 工学総合研究部 の教員が担当す る	
		障害児教育専攻 (修士課程)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)		
		教科教育専攻 (修士課程)	43 (43)	40 (40)	1 (1)	0 (0)	84 (84)	0 (0)	1 (1)		
計	54 (54)	48 (48)	1 (1)	0 (0)	103 (103)	0 (0)	1 (1)				
* 改 組 後	教育支援科学専攻 (修士課程)	6 (6)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	0 (0)			
	教科教育専攻 (修士課程)	38 (38)	40 (40)	1 (1)	0 (0)	79 (79)	0 (0)	0 (0)			
	計	44 (44)	48 (48)	1 (1)	0 (0)	93 (93)	0 (0)	0 (0)			
	医学工学総合教育部(修士課程) 医科学専攻		40 (40)	37 (37)	34 (34)	131 (131)	242 (242)	4 (4)	16 (16)		医学工学総合教 育部(博士課程) の授業は、医学 工学総合研究部 の教員が担当す る
	看護学専攻		7 (7)	4 (4)	1 (1)	8 (8)	20 (20)	1 (1)	5 (5)		
	機械システム工学専攻		14 (14)	8 (8)	0 (0)	8 (8)	30 (30)	1 (1)	1 (1)		
	電気電子システム工学専攻		10 (10)	8 (8)	0 (0)	9 (9)	27 (27)	0 (1)	10 (10)		
	コンピュータ・メディア工学専攻		11 (11)	9 (9)	0 (0)	8 (8)	28 (28)	0 (0)	3 (3)		
	土木環境工学専攻		10 (10)	8 (8)	0 (0)	6 (6)	24 (24)	2 (2)	1 (1)		
	応用化学専攻		11 (11)	8 (8)	0 (0)	8 (8)	27 (27)	1 (1)	13 (13)		
	生命工学専攻		8 (8)	8 (8)	0 (0)	5 (5)	21 (21)	0 (0)	1 (1)		
	人間システム工学専攻		7 (7)	5 (5)	0 (0)	5 (5)	17 (17)	0 (0)	1 (1)		
	持続社会形成専攻		10 (10)	7 (7)	0 (0)	3 (3)	20 (20)	0 (0)	7 (7)		
	医学工学総合教育部(博士課程) 先進医療科学専攻		12 (12)	12 (12)	18 (18)	56 (56)	98 (98)	1 (1)	5 (5)	医学工学総合教 育部(博士課程) の授業は、医学 工学総合研究部 の教員が担当す る	
	生体制御学専攻		12 (12)	12 (12)	5 (5)	25 (25)	54 (54)	1 (1)	1 (1)		
	ヒューマンヘルスケア学専攻		7 (7)	4 (4)	1 (1)	8 (8)	20 (20)	1 (1)	5 (5)		
	人間環境医工学専攻		28 (28)	25 (25)	11 (11)	58 (58)	122 (122)	2 (2)	3 (3)		

学部等の名称	専任教員等						兼任 教員
	教授	准教授	教師	助教	計	助手	
機能材料システム工学専攻	23 (23)	16 (16)	0 (0)	17 (17)	56 (56)	1 (1)	0 (0)
情報機能システム工学専攻	20 (20)	17 (17)	0 (0)	13 (13)	50 (50)	2 (2)	0 (0)
環境社会創生工学専攻	25 (25)	16 (16)	0 (0)	12 (12)	53 (53)	2 (2)	0 (0)
特別支援教育特別専攻科 障害児教育専攻	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
機器分析センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
グリーンエネルギー研究センター	3 (3)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
総合分析実験センター	1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
留学生センター	2 (2)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
保健管理センター	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
計	191 (191)	160 (160)	39 (39)	191 (191)	581 (581)	10 (10)	59 (59)
合 計	191 (191)	160 (160)	39 (39)	191 (191)	581 (581)	10 (10)	59 (59)

特別支援教育特別専攻科の授業は、教育人間科学部の教員が担当する

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事務職員		258 (258)	0 (0)	258 (258)					
	技術職員		433 (433)	3 (3)	436 (436)					
	図書館専門職員		15 (15)	0 (0)	15 (15)					
	その他の職員		32 (32)	0 (0)	32 (32)					
	計		738 (738)	3 (3)	741 (741)					
校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校舎敷地	220,722 m ²	0 m ²	0 m ²	220,722 m ²					
	運動場用地	74,991 m ²	0 m ²	0 m ²	74,991 m ²					
	小 計	295,713 m ²	0 m ²	0 m ²	295,713 m ²					
	そ の 他	85,241 m ²	0 m ²	0 m ²	85,241 m ²					
	合 計	380,954 m ²	0 m ²	0 m ²	380,954 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		143,667 m ² (143,667 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	143,667 m ² (143,667 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	111 室	28 室	202 室	7 室	1 室					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数						
		大学全体		442 室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	大学全体	606,405 [183,087]	12,794 [3,606]	5,488 [5,488]	3,628	3,670	133			
	計	606,405 [183,087]	12,794 [3,606]	5,488 [5,488]	3,628	3,670	133			
図書館		面積	閲覧座席数		収納可能冊数					
		7,044 m ²	578		495,000					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		2,743 m ²	運動場 2 面 (総面積 74,991 m ²) テニスコート 19 面 武道場 792 m ²		小体育館 320 m ² 弓道場 226 m ² プール 50m×7 コース					
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	国費による
		教員 1 人当り研究費等		－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
		共同研究費等		－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
		図書購入費	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
	設備購入費	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円		
	学生 1 人当り納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次			
	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円			
学生納付金以外の維持方法の概要										

既設 大学等 の 状 況	大 学 の 名 称	山梨大学							所 在 地
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過 率	開設 年度	
	教育人間科学部	年	人	年次 人	人		倍 1.07	平成 10年度	山梨県甲府市武田 4丁目4-37
	学校教育課程	4	100	—	400	学士 (教育)	1.09	〃	
	生涯学習課程	4	20	—	80	学士 (教養)	1.13	〃	
	国際共生社会課程	4	40	—	160	学士 (教養)	1.04	〃	
	リベラル課程	4	40	—	160	学士 (教養)	1.05	〃	
	医学部						1.02	平成 21年度	山梨県中央市下河東 1110
	医学科	6	120	— 3年次	630	学士 (医学)	1.01	平成 7年度	
	看護学科	4	60	10	260	学士 (看護学)	1.03		
	工学部						1.10	平成 元年度	山梨県甲府市武田 4丁目3-11
	機械システム工学科	4	90	3年次 10	380	学士 (工学)	1.13	平成 10年度	
	電気電子システム工学科	4	70	3年次 5	290	学士 (工学)	1.13	〃	
	コンピュータ・メディア工学科	4	75	3年次 5	310	学士 (工学)	1.06	〃	
	土木環境工学科	4	75	—	300	学士 (工学)	1.03	平成 元年度	
	応用化学科	4	50	—	200	学士 (工学)	1.15	平成 16年度	
	生命工学科	4	35	—	140	学士 (工学)	1.00	〃	
	循環システム工学科	4	45	—	180	学士 (工学)	1.02	平成 10年度	
	計		810	30	3,520		1.06		物質・生命工学科を改組し応用化学科、生命工学科を設置(H16)

学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過 率	開設 年度	所 在 地
教育学研究科 (修士課程) 学校教育専攻	2	6	—	12	修士 (教育学)	0.99	平成 7年度	山梨県甲府市武田 4丁目4-37
障害児教育専攻	2	3	—	6	修士 (教育学)	0.66	〃	
教科教育専攻	2	33	—	66	修士 (教育学)	0.78	〃	
計		42	—	84		0.80		
医学工学総合教育部 (修士課程) 医科学専攻	2	20	—	40	修士 (医科学)	0.55	平成 15年度	山梨県甲府市武田 4丁目3-11 *機械システム工学 専攻は平成21年 度より入学定員 変更 物質・生命工学 専攻を改組し応 用化学専攻及び 生命工学専攻を 設置 (H20) 循環システム工学 専攻を改組し人 間システム工学 専攻を設置 (H21) *自然機能開発 専攻は平成 21 年度より学生募 集停止 循環システム工 学専攻及び持続 社会形成専攻を 改組し持続社会 形成専攻を設置 (H 17) 持続社会形成専 攻の入学定員と 収容定員は、1 年間の修士課程 短期特別コース (6名)を含む
看護学専攻	2	16	—	32	修士 (看護学)	0.93	〃	
機械システム工学専攻	2	33	—	69	修士 (工学)	1.02	〃	
電気電子システム工学 専攻	2	27	—	54	修士 (工学)	1.12	〃	
コンピュータ・メディア工 学専攻	2	30	—	60	修士 (工学)	1.24	〃	
土木環境工学専攻	2	27	—	54	修士 (工学)	0.68	〃	
応用化学専攻	2	30	—	60	修士 (工学)	1.39	平成 20年度	
生命工学専攻	2	22	—	44	修士 (工学)	1.13	平成 20年度	
人間システム工学専攻	2	18	—	18	修士 (工学)	1.00	平成 21年度	
自然機能開発専攻	2	—	—	15	修士 (工学)		平成 15年度	
持続社会形成専攻	2	30	—	54	修士 (工学) (学術)	0.33	平成 17年度	
計		253	—	500		0.98		

学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過 率	開設 年度	所 在 地	
医学工学総合教育部 (博士課程) 先進医療科学専攻	4	21	—	84	博士 (医学)	0.73	平成 15年度	山梨県甲府市武田 4丁目3-11	
生体制御学専攻	4	12	—	48	博士 (医学)	0.18	〃		
ヒューマンヘルスケア学専攻	3	4	—	12	博士 (看護学)	1.08	〃		
人間環境医工学専攻	3	18	—	54	博士 (医科学) (医工学) (情報科学)	0.51	〃		
機能材料システム工学 専攻	3	13	—	39	博士 (工学)	0.73	〃		
情報機能システム工学 専攻	3	12	—	36	博士 (工学)	0.24	〃		
環境社会創生工学 専攻	3	13	—	39	博士 (工学) (学術)	0.43	〃		
計		93	—	312		0.56			
特別支援教育特別 専攻科 障害児教育専攻	1	30	—	30		0.43	昭和 54年度	山梨県甲府市武田 4丁目4-37	学校教育法等の 一部を改正する 法律(平成18年 法律第80号)の 施行に伴い、名 称変更(H19)

<p>附属施設の概要</p>	<p>(附属学校)</p> <p>名 称：教育人間科学部附属小学校 目 的：理論及び実際に関する研究・教育を行う。 所 在 地：山梨県甲府市北新1丁目4-1 設置年月：昭和26年4月 規 模 等：建物 4,036 m²</p> <p>名 称：教育人間科学部附属中学校 目 的：中学校教育の理論及び実際に関する研究並びにその実験・実証に寄与する。 所 在 地：山梨県甲府市北新1丁目4-2 設置年月：昭和26年4月 規 模 等：建物 4,636 m²</p> <p>名 称：教育人間科学部附属特別支援学校 目 的：知的障害児教育の理論と実践についての研究・教育を行う。 所 在 地：山梨県甲府市天神町17-35 設置年月：昭和48年4月 規 模 等：建物 3,490 m²</p> <p>名 称：教育人間科学部附属幼稚園 目 的：幼児教育の実証的研究を進める。 所 在 地：山梨県甲府市北新1丁目2-1 設置年月：昭和26年4月 規 模 等：建物 984 m²</p> <p>(学部等の附属施設)</p> <p>名 称：教育人間科学部附属教育実践総合センター 目 的：教員養成・教員研修の段階におけるカリキュラム開発、情報通信技術を活用した教育方法の研究のほか、実際の教育の現場における諸問題の研究や現職教員対象の教育相談などを行う。 所 在 地：山梨県甲府市武田4丁目4-37 設置年月：平成元年5月 規 模 等：建物 J号館 3,190 m²の一部</p> <p>名 称：医学部附属病院 目 的：県内唯一の特定機能病院として、地域の中核的医療及び高度医療を担い、診療を通じて教育・研究を行う中で、患者さんの人権を尊重する医療人を養成する。 所 在 地：山梨県中央市下河東1110 設置年月：昭和58年4月 規 模 等：建物 42,578 m²</p> <p>名 称：工学部附属ワイン科学研究センター 目 的：世界的な視野に立ち、先端的な細胞工学や遺伝子工学技術を駆使した基盤研究から、最新のブドウ栽培並びにワイン醸造の実用研究までを包括する。 所 在 地：山梨県甲府市北新1丁目13-1 設置年月：平成12年4月 規 模 等：建物 1,722 m²</p> <p>名 称：工学部附属クリスタル科学研究センター 目 的：原子配列制御や集合組織制御によって新しい機能を持つ結晶の育成に関する研究及びその応用に関する研究を行う。 所 在 地：山梨県甲府市宮前7 設置年月：平成14年4月 規 模 等：建物 2,282 m²</p>	
----------------	---	--

	<p> 名 称：工学部附属ものづくり教育実践センター 目 的：地場産業である伝統工芸を取り入れた実習、機械工作実習、研究用機器の設計・製作に関する全面的支援を行う。 所 在 地：山梨県甲府市武田4丁目3-11 設置年月：平成17年4月 規 模 等：建物 1,088 m² </p> <p> 名 称：工学部附属国際流域環境研究センター 目 的：地域や諸外国と連携し人的ネットワーク拠点を形成しながら、流域環境に関する研究・教育を進める。 所 在 地：山梨県甲府市武田4丁目3-11 設置年月：平成19年4月 規 模 等：建物 工学部の一部 </p> <p>(附属図書館)</p> <p> 名 称：附属図書館 目 的：図書や雑誌だけでなく、ビデオやDVDのほか、IT時代に対応した電子ジャーナルやデータベースを導入し、教育及び研究への支援を行う。 所 在 地：(本館) 山梨県甲府市武田4丁目4-37 (医学分館) 山梨県中央市下河東1110 設置年月：(本館) 昭和41年4月 (医学分館) 昭和57年4月 規 模 等：建物 (本館) 5,849 m² (医学分館) 1,663 m² </p> <p>(学内共同教育研究施設)</p> <p> 名 称：クリーンエネルギー研究センター 目 的：エネルギー及び地球環境問題の解決に貢献するクリーンエネルギーに関する研究を推進する。 所 在 地：山梨県甲府市宮前町7-32 設置年月：平成13年4月 規 模 等：建物 1,213 m² </p> <p> 名 称：機器分析センター 目 的：電子顕微鏡、電子分光など、精密分析計測が可能な機器と関連機器を備え、共同利用に提供する。 所 在 地：山梨県甲府市武田4丁目3-11 設置年月：平成7年4月 規 模 等：建物 1,561 m² </p> <p> 名 称：総合分析実験センター 目 的：機能解析分野、資源開発分野、生命情報分野の3本柱で、大学全体の教育・研究活動を支える。 所 在 地：山梨県中央市下河東1110 設置年月：平成14年4月 規 模 等：建物 2,999 m² </p> <p> 名 称：総合情報戦略機構 目 的：情報処理教育に利用するコンピュータ端末や、教育・研究のため利用する各種サーバ等の環境を提供する。 所 在 地：山梨県甲府市武田4丁目3-11 設置年月：平成9年4月 規 模 等：建物 750 m² </p>	
--	--	--

	<p> 名 称：留学生センター 目 的：留学生の勉学及び研究生活がみのり多きものになるよう、指導と支援をする。 所 在 地：山梨県甲府市武田4丁目4-37 設置年月：平成15年4月 規 模 等：建物 総合研究棟7,000 m²の一部 </p> <p> 名 称：大学教育研究開発センター 目 的：大学教育に関する研究・開発を行うと共に、共通教育の実施を支援する。 所 在 地：山梨県甲府市武田4丁目4-37 設置年月：平成17年4月 規 模 等：建物 総合研究棟7,000 m²の一部 </p> <p> 名 称：キャリアセンター 目 的：学生の就職、進学支援の企画・実施及び進路情報提供・分析の他、学生のキャリア形成・低学年からの進路形成に係るキャリア教育を展開する。 所 在 地：山梨県甲府市武田4丁目4-37 設置年月：平成19年4月 規 模 等：建物 大学本部棟2,738 m²の一部 </p> <p> 名 称：燃料電池ナノ材料研究センター 目 的：エネルギー資源の有効利用、地球環境の保全に貢献する水素・燃料電池に関する先端的研究を学内外の諸機関と連携して推進する拠点となり、その科学・技術の確立を目指すと共に、山梨大学における教育研究の発展に資する。 所 在 地：山梨県甲府市武田4丁目3-11 設置年月：平成20年4月 規 模 等：建物 工学部の一部 </p> <p> (保健管理センター) </p> <p> 名 称：保健管理センター 目 的：学生及び教職員の健康保持・増進させる。 所 在 地：(甲府) 山梨県甲府市武田4丁目4-37 (医学部) 山梨県中央市下河東1110 設置年月：(甲府) 昭和44年4月 (医学部) 平成10年4月 規 模 等：建物 (甲府) 396 m² (医学部) 管理棟2,802 m²の一部 </p>	
--	--	--

別記様式第2号(その2)

教育課程等の概要														
(教育実践創成専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通基礎科目	カリキュラムの見方考え方	1(前)	2				○		3					
	カリキュラムのマネジメント	1(後)	2				○		2	1				
	授業研究マネジメント論	1(前)	2				○		1	1				
	授業創造の心理学	1(後)	2			○			3					
	子ども援助の実践的課題	1(前)	2				○		2	1				
	教育相談フィールドワーク論	1(後)	2				○		1					兼1
	学校組織経営論	1(前)	2			○			1	1				
	学校改善論	1(後)	2				○		1	1				
	現代学校論	1(前)	2			○				1				兼1
	現代教員論	1(後)	2				○			2				兼1 兼1
小計(10科目)	—	—	20	0	0	—	—	—	7	4	0	0	0	兼2
独自科目 共通	学校危機管理論	1・2(前)	2			○			1	2				兼1 集中
	科学的リテラシー教育革新論	1・2(前)	2			○			3	1				兼1 集中
	小計(2科目)	—	—	4	0	0	—	—	4	3	0	0	0	兼1
発展科目	子どものエンパワーメント論	1(後)		2			○		2					
	山梨の学校改革	1(前)		2			○		1	3				兼1
	学校・教員評価論	1(前)		2		○			3	1				
	理数学力評価論	1(後)		2			○		3					
	理数学習教材開発論	1(後)		2			○		2	1				
	言語学習開発論	1(前)		2			○		2					兼1
小計(6科目)	—	—	0	12	0	—	—	7	4	0	0	0	兼1	
課題研究	課題研究Ⅰ	1(前)	2				○		7	4				兼1
	課題研究Ⅱ	1(後)	2				○		7	4				兼1
	課題研究Ⅲ	2(通)	2				○		7	4				兼1
	小計(3科目)	—	—	6	0	0	—	—	7	4	0	0	0	兼1
実習	実習Ⅰ(課題発見実習)	1(通)	5					○	7	4				兼1
	実習Ⅱ(課題達成実習)	2(通)	5					○	7	4				兼1
	小計(2科目)	—	—	10	0	0	—	—	7	4	0	0	0	兼1
合計(23科目)		—	—	40	12	0	—	—	7	4	0	0	0	兼2
学位又は称号		教職修士(専門職)		学位又は学科の分野				教員養成関係						
修了要件及び履修方法							授業期間等							
共通基礎科目20単位、独自共通科目4単位、発展科目から6単位、課題研究6単位、実習10単位、合計46単位以上を修得すること。							1学年の学期区分			2学期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

(教育人間科学部学校教育課程)

教育課程等の概要														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学部入門ゼミ	学部入門ゼミ	1前	2			○			35	32				
	小計(1科目)	—	2	0	0	—			35	32	0	0	0	
学部共通基礎科目	現代教育論	1・2(前・後)		2		○			1					兼1
	教育の現在(教育原理を含む。)	1(後)		4		○			3	2				
	生涯発達教育心理学	1・2(前)		2		○			1					
	情報科学入門及び実習	1(前)	2					○	2	4				
	人間と社会	1・2(後)		2		○			1					
	環境科学概論	1・2(前)		2		○				1				
	小計(6科目)	—	2	12	0	—			8	7	0	0	0	
課程共通基礎科目	現代教職論	1・2(前・後)	2			○			1	1				兼1 兼1 兼1 兼1
	教育課程臨床論	2(前)	2			○			2	3				
	授業分析論	2(後)	2			○								
	学校臨床心理学(生徒指導・進路指導含む)	2・3(後)	2			○				1				
	社会参加実習Ⅰ	1(前)		1				○						
	社会参加実習Ⅱ	2(前)		1				○						
	社会参加実習Ⅲ	3(後)		1				○						
	社会参加実習Ⅳ	4(後)		1				○						
	特別支援教育論	2(前)	1			○			2					
	福祉援助論	2(前)	1			○			1					
小計(10科目)	—	10	4	0	—			6	6	0	0	0		
課程共通専門科目	教職実践演習	4(後)	2				○							非開講
小計(1科目)	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0		
コース専門教職科目(教職に関する科目)	児童期心理学	1・2・3(後)		2		○			1					兼9 兼2 兼4 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼2 兼1 兼1 兼1 兼1
	青年期心理学	1・2・3(後)	2			○				1				
	保育・幼児教育制度論	1(後)	2			○				1				
	発達障害児支援論	1・2・3(後)		2		○			1					
	学校制度・経営論	4(前)	2			○			1					
	初等国語科教育学(書写を含む)	1・2・3(前・後)	2			○			2					
	初等社会科教育学	1・2・3(前・後)	2			○				2				
	初等数学科教育学	2・3(前・後)	2			○			1	1				
	初等理科教育学	2・3(前)	2			○			1					
	初等音楽科教育学	2(前・後)	2			○			1	2				
	初等図画工作科教育学	2・3(前・後)	2			○			2					
	初等体育科教育学	2(前・後)	2			○			4					
	初等家庭科教育学	2(前・後)	2			○				2				
	初等生活科教育学	2・3(前・後)	2			○								
	中等国語科教育法Ⅰ	2(前)	2			○			1					
	中等国語科教育法Ⅱ	2・3(後)		2		○								
	中等国語科教育法Ⅲ	2・3(前)	2			○			1					
	中等国語科教育法Ⅳ	2・3(後)	2			○			1					
	中等社会科教育法Ⅰ	1・2・3(前)	2			○				1				
	中等社会科教育法Ⅱ	1・2・3(後)	2			○				1				
	中等社会・地理歴史教育法	2・3・4(後)	2			○			1	2				
	中等社会・公民教育法	2・3・4(前)	2			○			1	1				
	中等数学科教育法Ⅰ	2・3(前)	2			○			1					
	中等数学科教育法Ⅱ	2・3(後)	2			○			1					
中等数学科教育法Ⅲ	2・3(後)	2			○				1					
中等理科教育法	2・3(前)	2			○			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
コース専門教職科目(教職に関する科目)	理科教育教材研究Ⅰ	2・3(後)		2		○			1					兼1
	理科教育教材研究Ⅱ	2・3(前)		2		○			1					兼1
	中等英語科教育法	2・3(前)		2		○				1				
	英語教育の諸問題Ⅰ(指導法)	2・3(後)		2		○			1					
	英語教育教材・教具論	2・3(後)		2		○			1					
	英語授業研究	1・2・3(前)		2		○			1					
	中等国語科教育法Ⅰ	1・2・3(前)		2		○			1					兼1
	中等国語科教育法Ⅱ	2・3・4(後)		2		○								兼1
	中等国語科教育法Ⅲ	2・3・4(前)		2		○			1					
	中等国語科教育法Ⅳ	2・3(後)		2		○			1					
	国語科実践史演習Ⅰ	2・3(前)		2			○		1					
	国語科実践史演習Ⅱ	2・3(前)		2			○		1					
	国語科授業開発演習Ⅰ	2・3(後)		2			○		1					
	国語科授業開発演習Ⅱ	2・3(後)		2			○		1					
	中等社会科教育法Ⅰ	1・2・3(前)		2		○				1				兼1
	中等社会科教育法Ⅱ	1・2・3(後)		2		○				1				
	中等社会・地理歴史教育法	2・3・4(後)		2		○			1	2				
	中等社会・公民教育法	2・3・4(前)		2		○			1	1				
	中等数学科教育法Ⅰ	2・3(前)		2		○			1					兼1
	中等数学科教育法Ⅱ	2・3(後)		2		○			1					兼1
	中等数学科教育法Ⅲ	2・3(後)		2		○				1				
	数学教育学習論	3(前)		2		○				1				
	数学教育課程論	3(後)		2		○			1					
	中等理科教育法	2・3(前)		2		○			1					兼1
	理科教育教材研究Ⅰ	2・3(後)		2		○			1					兼1
	理科教育教材研究Ⅱ	2・3(後)		2		○			1					兼1
	理科教育学原論	4(前)		2		○			1					
	理科教育課程論	4(後)		2		○			1					
	理科教育学実験	3(前)		2				○	2					
	理科教育教材・教具論	1・2・3(前)		2		○								兼1
	中等音楽科教育法Ⅰ	2(後)	2			○			1					
	中等音楽科教育法Ⅱ	2・3(後)		2		○				1				
	音楽科教育研究Ⅰ	2・3(前)		2		○			1					
	音楽科教育研究Ⅱ	2・3(後)		2		○				1				
	美術科教育法総論Ⅰ	2・3(前)	2			○				1				
	美術科教育法総論Ⅱ	2・3(後)	2			○				1				
	美術科教育法各論Ⅰ	2・3(前)		2		○				1				
	美術科教育法各論Ⅱ	2・3(後)		2		○				1				
	美術教育論Ⅰ	4(前)		2		○				1				
	美術教育論Ⅱ	4(後)		2		○				1				
	美術教育演習Ⅰ	4(前)		2			○		2					
	美術教育演習Ⅱ	4(後)		2			○							
	中等保健体育科教育法Ⅰ	2(前)	2			○			1					
	中等保健体育科教育法Ⅱ	2(後)	2			○								兼1
	保健体育科教育法Ⅰ	2・3(前)		2		○			1					
保健体育科教育法Ⅱ	2・3(後)		2		○				1					
中等家庭科教育法第一	2(前)	2			○								兼2	
中等家庭科教育法第二	2(後)		2		○								兼1	
中等家庭科授業研究Ⅰ	2・3(後)		2		○			4	1					
中等家庭科授業研究Ⅱ	3・4(前)		2		○				1					
家庭科教育学Ⅱ	3・4(後)		2		○				1					
中等技術科教育法Ⅰ	2(前)	2			○			1					兼1	
中等技術科教育法Ⅱ	2(後)		2		○			1						
中等技術科教育演習Ⅰ	3(前)		2			○		1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
コース専門教職科目（教職に関する科目）	中等技術科教育演習Ⅱ	3（後）		2			○		1								
	書道科教育学Ⅰ	2・4（前）		2		○			1								
	書道科教育学Ⅱ	2・4（後）		2		○			1								
	地理歴史科教育法	1・3（後）		2		○				1							
	中等社会・地理歴史教育法	2・3・4（後）		2		○			1	2							
	公民科教育法	1・2・3（後）		2		○				1							
	中等社会・公民教育法	2・3・4（前）		2		○			1	1							
	道德教育研究	1・2・3（前・後）	2			○			2								
	特別活動論	1・2・3（前）	2			○			2	2							
	幼児の発達理解とカウンセリング・マインド	1（前）	2			○											兼1
	学校教育相談論	2・3（前）	2			○			1								兼1
	心理療法	2・3（後）		2		○											兼1
	保育内容（音楽表現）	2（前）		2		○											兼1
	保育内容（絵画造形）	2（後）		2		○											兼1
	保育内容（ことば）	2・3（後）	2			○			1								兼1
	保育内容（環境）	2・3（後）		2		○											兼1
	保育内容（人間関係）	2・3（前）	2			○				1							
	保育内容（健康）	2（前）		2		○											
	保育実践演習Ⅰ	1・2・3・4（前）		1			○										兼1
	保育実践演習Ⅱ	1・2・3・4（前）		1			○										兼1
	保育実践演習Ⅲ	1・2・3・4（後）		1			○										兼1
	保育実践演習Ⅳ	1・2・3・4（後）		1			○										兼1
	総合演習	3・4（前・後）	2				○			34	30						兼1
	小学校教育実習	3（前）	4														
	中・高等学校教育実習	3（前）	3														
	応用教育実習（幼稚園）	3（後）	4														
	応用教育実習（小学校）	4（後）		3													
	応用教育実習（中学校）	4（後）		3													
	教育実習（特別支援学校） （事前・事後指導1単位含む）	4（前）		3													
	幼稚園教育実習	4（前）		3													
	授業設計論（事前指導）	3（前）	1														
授業実践論（事後指導）	3（後）	1															
国語科内容論	1・2・3（前・後）		2			○			2							兼1	
社会科内容論	1・2・3（前・後）		2			○			7	4							
算数科内容論	1・2・3（前・後）		2			○				2							
理科内容論	1・2・3（前・後）		2			○				2		1					
音楽科内容論	1・2・3（前・後）		2			○			2	2							
体育科内容論	1・2・3（前・後）		2			○			2	2							
図画工作科内容論	1・2・3（前・後）		2			○				2							
家庭科内容論	1・2・3（前・後）		2			○				2							
生活科内容論	1・2・3（前・後）		2			○										兼4	
小計（121科目）	—		71	174	0		—		34	30	0	1	0				
コース専門科目	発達教育コース	学級・学校経営	1（前）		2		○			1							
		現代教育政策論	1（後）		2		○			1							
		学校カウンセリング基礎論	1・2（後）		2		○				1						
		授業心理学	1・2（前）		2		○			1							
		学校社会心理学	1・2（前）		2		○				1						
		心理学特殊講義	1・2・3・4（前）		1		○										兼1
		教育学特殊講義Ⅰ	2・3・4（前）		1		○										兼1
		現代教育方法論	2（前）		2		○				1						
		教育史料論	2（後）		2		○				1						
		比較教育論	2（前）		2		○				1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
発達教育 コース	教育社会学演習Ⅰ	3 (前)		2			○			1					
	教育内容・方法論演習Ⅰ	3 (前)		2			○			1					
	日本教育史演習Ⅰ	3 (前)		2			○				1				
	公教育経営論演習Ⅰ	3 (前)		2			○			1					
	教育思想演習Ⅰ	3 (前)		2			○			1					
	教育社会学演習Ⅱ	3 (前)		2			○				1				
	教育内容・方法論演習Ⅱ	3 (前)		2			○			1					
	日本教育史演習Ⅱ	3 (前)		2			○				1				
	公教育経営論演習Ⅱ	3 (前)		2			○			1					
	教育思想演習Ⅱ	3 (後)		2			○			1					
	教育学総論Ⅰ	4 (後)		2			○			3	2				
	教育心理統計学	2 (後)		2			○			1					
	実験・調査計画法	3 (前)		2			○			1					
	心理アセスメント演習	2 (前)		2			○				1				
	フィールドワーク研究法	3 (後)		2			○				1				
	社会心理学基礎論	3 (前)		2			○				1				
	認知心理学基礎論	3 (前)		2			○			1					
	認知発達心理学基礎論	3 (前)		2			○								
	臨床心理学基礎論	3 (前)		2			○				1				
	社会心理学演習	3 (後)		2				○			1				
	認知心理学演習	3 (後)		2				○		1					
	認知発達心理学演習	3 (後)		2				○		1					
	臨床心理学演習	3 (後)		2				○			1				
	教育心理学総論Ⅰ	4 (前)		2			○			2	1				
	教育心理学総論Ⅱ	4 (後)		2			○			2	2				
	小計 (35科目)	—		0	68	0		—		5	5	0	0	0	
	コース専門 科目	国語学概論 (音声言語及び文章表現を含む)	1・2 (前)	2				○			1				
国語表現法		1・2・3・4 (後)		2			○			1					
国語学演習Ⅰ		2・3 (前)		2				○		1					
国語学演習Ⅱ		2・3 (後)		2				○		1					
日本語史		1・2・3 (後)		2			○			1					
日本文学概論		1 (前)		2			○			1					
日本古典文学史		1・2 (前)		2			○			1					
日本文芸史Ⅱ		2・3・4 (後)		2			○			1					
古典文学演習Ⅰ		2・3 (前)		2				○		1					
古典文学演習Ⅱ		2・3 (後)		2				○		1					
近代文学演習Ⅰ		2・3 (前)		2				○		1					
近代文学演習Ⅱ		2・3 (後)		2				○		1					
日本文学作品演習Ⅰ		3・4 (前)		2				○		1					
日本文学特殊講義Ⅱ		1・2・3・4 (前)		2				○							兼1
漢文学概説		1・2・3 (後)	2					○		1					
漢文学講読Ⅰ		1・2・3 (前)		2				○		1					
漢文学講読Ⅱ		1・2・3 (後)		2				○		1					
中国言語文化演習Ⅰ		3・4 (前)		2					○	1					
書写演習Ⅰ		1・2 (前)	2						○	1					
書写演習Ⅱ		1・2 (後)		2					○	1					
書学概論		2・3 (前)		2				○							兼1
名跡研究		2・4 (前)		2				○		1					
書論研究		2・4 (後)		2				○		1					
国語学研究法Ⅰ	3・4 (前)		2				○			1					
国語学研究法Ⅱ	3・4 (後)		2				○			1					
国語学研究法Ⅲ	3・4 (前)		2				○			1					
国語学研究法Ⅳ	3・4 (後)		2				○			1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
国語教育専修	近代文学研究法Ⅰ	3・4(前)		2		○			1						
	近代文学研究法Ⅱ	3・4(後)		2		○			1						
	古典文学研究法Ⅰ	3・4(前)		2		○			1						
	古典文学研究法Ⅱ	3・4(後)		2		○			1						
	書写・書道研究法Ⅰ	3・4(前)		2		○			1						
	書写・書道研究法Ⅱ	3・4(後)		2		○			1						
	文学教育研究法Ⅰ	3・4(前)		2		○			1						
	文学教育研究法Ⅱ	3・4(後)		2		○			1						
	言語教育研究法Ⅰ	3・4(前)		2		○			1						
	言語教育研究法Ⅱ	3・4(後)		2		○			1						
	国語学研究法Ⅳ	3・4(後)		2		○				1					
	社会言語学	1・2・3(前)		2		○				1					
	言語心理学	1・2・3(後)		2		○				1					
	日本語教育概論Ⅰ	1・2・3(前)		2		○				1					
	日本語教育概論Ⅱ	1・2・3(後)		2		○				1					
	日本語教授法Ⅰ	1・2・3(後)		2		○									兼1
	日本語教授法Ⅱ	2・3・4(前)		2		○									兼1
	日本語教育実習	3・4(前)		2		○				3					
	日本語の文字・表記・語彙	1・2・3(後)		2		○				1					
	日本語の文法	1・2・3(後)		2											兼1
	小計(47科目)	—		6	88	0	—			4	1	0	0	0	
コース専門科目	日本史概説	1・2・3・4(前)	2			○				1					
	日中交渉史Ⅰ	1・2・3・4(後)		2		○				1					
	日本史特殊講義	2・3・4(前)		2		○				1					
	日本社会文化論	2・3・4(後)		2		○				1					
	日本史講読Ⅰ	2・3・4(前)		2		○				1					
	日本史講読Ⅱ	2・3・4(後)		2		○				1					
	東洋史概説	1・2・3・4(前)	2			○									兼1
	西洋史概説	1・2・3・4(前)	2			○				1					
	西洋史特殊講義	2・3・4(後)		2		○				1					
	東洋史講読Ⅰ	2・3・4(後)		2		○									兼1
	西洋史講読Ⅰ	2・3・4(前)		2		○				1					
	西洋史講読Ⅱ	2・3・4(後)		2		○				1					
	歴史学方法論	4(前)		2		○				2					
	歴史学研究法	4(後)		2		○				2					
	地誌学概論	1・2・3・4(前)	2			○				1					
	地誌学	2・3・4(後)		2		○				1					
	人文地理学概論	1・2・3・4(後)	2			○				1					
	自然地理学概論	1・2・3・4(前)	2			○									兼1
	都市地理学	2・3・4(前)		2		○				1					
	都市地理学演習	2・3・4(後)		2			○			1					
	地理学実験	2・3・4(前)		1				○		1		1			
	地図学実習	2・3・4(後)		1				○		1		1			
	臨地研究Ⅰ	2・3・4(前)		2		○				1					
	自然環境学	3・4(後)		2		○				1		1			
	法律学概説(国際法を含む)	2・3・4(前)		2		○					1				
	世界の憲法	2・3・4(後)		2		○					1				
	現代世界の政治	2・3・4(前)		2		○					1				
	社会学概論	2・3(前)	2			○				1					
	社会調査法	2・3・4(前)		2		○				1					
	社会学講読	2・3(後)		2		○				1					
社会調査演習	1・2・3・4(前)		2			○			1						
マクロ経済学	2・3・4(前)		2		○					1					
公共の経済学	2・3・4(前)		2		○									兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
社会科 教育専修	地域産業経済史	2・3・4 (前)		2		○			1						兼1
	国際経済学	2・3・4 (後)		2		○									
	哲学概論	1・2・3・4 (後)		2		○			1						
	倫理学概論	2・3・4 (前)		2		○			1						
	哲学史	2・3・4 (前)		2		○			1						
	哲学演習Ⅰ	2・3・4 (前)		2			○		1						
	哲学演習Ⅱ	2・3・4 (後)		2			○		1						
	西洋倫理思想史	2・3・4 (前)		2		○			1						
	宗教学	2・3・4 (後)		2		○			1						
	地域社会論基礎演習	3 (後)		2			○			1	1				
	地域社会論応用演習	4 (前)		2			○			1					
	国際化社会論基礎演習	3 (後)		2			○			1					
	国際化社会論応用演習	4 (前)		2			○			1					
	共生社会論基礎演習	3 (後)		2			○			1					
	共生社会論応用演習	4 (前)		2			○			1					
	社会科原論	2・3 (前)		2		○				1					
	社会科学習論	2・3 (後)		2		○				1					
	社会科教育学概論	2・3 (前)		2		○					1				
	社会科授業構成論	2・3 (後)		2		○					1				
	社会科教育史	3・4 (前)		2		○				1					
	比較社会科教育論	3・4 (後)		2		○				1					
	社会科課程論	3・4 (前)		2		○					1				
	社会科教育学研究法	3・4 (後)		2		○					1				
小計 (56科目)	—		14	96	0	—			4	4	1	1	0		
コース 専門科目	線形代数学Ⅰ	1 (前)	2			○				1					
	線形代数学Ⅱ	1 (後)		2		○				1					
	群の構造	2 (後)		2		○				1					
	代数的構造	3・4 (前)		2		○				1					
	立体の幾何学	2 (前)	2			○			1						
	集合と写像	2 (前)		2		○			1						
	位置と距離の数学	2 (後)		2		○			1						
	曲面の幾何学	3・4 (前)		2		○				1					
	空間の構造	3・4 (後)		2		○				1					
	微分積分学Ⅰ	1 (前)	2			○			1						
	微分積分学Ⅱ	1 (後)		2		○			1						
	関数と数列	2 (前)		2		○			1						
	複素関数Ⅰ	3・4 (前)		2		○			1						
	複素関数Ⅱ	3・4 (後)		2		○			1						
	解析学特論	3・4 (後)		2		○				1					
	確率論	2 (前)	2			○				1					
	数理統計学	2 (後)		2		○				1					
	時系列解析	3・4 (後)		2		○				1					
	コンピュータ	2 (前)	2			○				1					
	数学科教育学原論	1 (前)		2		○			1						
	数学科教育学演習	2・3 (前)		2			○		1	1					
	数学教育認識論	4 (前)		2		○			1	1					
	数学教育認識論演習	4 (後)		2			○		1	1					
小計 (23科目)	—		10	36	0	—			1	3	0	0	0		
理科 教育専修	物理学一般	1 (前)	2			○				1					
	運動の数理Ⅰ	1 (後)		2		○				1					
	運動の数理Ⅱ	2 (前)		2		○				1					
	物理学特論	3・4 (後)		2		○				1					
	物理学セミナーⅠ	3 (前)		2		○			1	1					
物理学セミナーⅡ	3 (後)		2		○			1	1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
理 科 教 育 専 修 コ ー ス 専 門 科 目	電磁場の数理Ⅰ	2(前)		2		○				1						
	電磁場の数理Ⅱ	2(後)		2		○				1						
	物理学実験Ⅰ(コンピュータ活用を含む)	2(前)	1					○		1				1		
	物理学実験Ⅱ(コンピュータ活用を含む)	2(後)		1				○		1						
	化学一般	1(前)	2			○				1						兼1
	基礎物理化学	1(後)		2		○				1						兼1
	分析化学	2(前)		2		○										兼1
	有機化学	2(前)		2		○				1						兼1
	環境化学Ⅰ	2(後)		2		○										兼1
	環境化学Ⅱ	2(後)		2		○				1						
	資源材料化学	1・2(後)		2		○				1						
	化学セミナーⅠ	3・4(前)		2		○				2						
	化学セミナーⅡ	3・4(後)		2		○				2						兼1
	化学実験Ⅰ(コンピュータ活用を含む)	2(前)	1						○	2						
	化学実験Ⅱ(コンピュータ活用を含む)	2(後)		1					○	2						兼1
	物理化学実験	3(後)		1					○	1						
	無機・分析化学実験	3(前)		1					○							兼1
	有機化学実験	3(前)		1					○	1						
	動物学	1・2(後)		2		○				1						
	植物学	1・2(前)		2		○					1					
	生物学セミナーⅠ	3・4(前)		2		○					1					
	生物学セミナーⅡ	3・4(後)		2		○					1					
	生態学	1・2・3・4(後)		2		○				1						
	多様性生物論	2(前)	2			○				1						
	環境生物論	2・3(後)		2		○					1					
	生物学実験Ⅰ(コンピュータ活用を含む)	1・2(前)	1						○	1						
	生物学実験Ⅱ(コンピュータ活用を含む)	1・2(後)		1					○	1						
	環境生物実験Ⅰ(コンピュータ活用を含む)	2(前)		1					○	1						
	臨海実習Ⅰ	1・2・3・4(前)		1					○	1						
	地学一般	1・2(前)	2			○										兼1
	地学セミナーⅠ	3(前)		2		○					2					兼1
	地学セミナーⅡ	3(後)		2		○					2					兼1
	地学特論	3・4(後)		2		○										兼1
	鉱物学	3・4(前)		2		○					1					
	古生物学	3(前)		2		○					1					
	気象学	2・3・4(後)		2		○										兼1
	地学実験Ⅰ(コンピュータ活用を含む)	2・3(前)	1						○	1						兼1
	地学実験Ⅱ(コンピュータ活用を含む)	2・3(後)		1					○				1			兼1
	環境地学実験Ⅰ(コンピュータ活用を含む)	2・3(前)		1					○	1			1			
	野外地学実習Ⅰ	2(前)		1					○	2			1			
	野外地学実習Ⅱ	3(後)		1					○	2			1			
	理科教育学原論	4(前)		2		○				1						
理科教育課程論	4(後)		2		○				1							
理科教育学実験	3(前)		1					○	2							
理科教育教材・教具論	1・2・3(前)		2		○										兼1	
小計(51科目)	—		12	73	0	—			3	4	0	1	1			
音 楽 教 育 専 修	ソルフェージュⅠ	1・2(前)	1			○				1						
	ソルフェージュⅡ	1・2(後)		1		○				1						
	音楽基礎研究	1・2(後)		2		○					1					
	声楽研究Ⅰ	1・2(前)		2		○					1					
	声楽研究Ⅱ	1・2(後)		2		○					1					
	声楽実習Ⅰ(日本の伝統的な歌唱を含む)	2・3(前)	1						○		1					

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
音楽教育専修	声楽実習Ⅱ（日本の伝統的な歌唱を含む）	2・3（後）	1					○		1							
	合唱Ⅰ	1・2・3・4（前）	1			○				1							
	合唱Ⅱ	1・2・3・4（後）		1		○				1							
	声楽特別研究	4（後）		2		○				1							
	ピアノ演奏研究Ⅰ	1・2（前）		2		○				1							
	ピアノ演奏研究Ⅱ	1・2（後）		2		○				1							
	ピアノ実習Ⅰ	2・3（前）	1					○		1							
	ピアノ実習Ⅱ	2・3（後）	1					○		1							
	ピアノ伴奏法Ⅰ	3・4（前）	1			○				1							
	ピアノ伴奏法Ⅱ	3・4（後）		1		○				1							
	邦楽器実習	1・2・3・4（後）	1					○		1							
	合奏法Ⅰ	1・2・3・4（前）	1			○				1							
	合奏法Ⅱ	1・2・3・4（後）		1		○					1						
	リコーダー実習Ⅰ	2・3（前）		1					○								
	リコーダー実習Ⅱ	2・3（後）		1					○								
	管・弦・打楽器実習Ⅰ	1・2・3・4（前）		1					○								
	管・弦・打楽器実習Ⅱ	1・2・3・4（後）		1					○								
	管・弦・打楽器実習Ⅲ	1・2・3・4（前）		1					○		1						
	ピアノ特別研究	4（後）		2		○				1							
	鍵盤音楽研究	1・2・3（前）		2		○				1							
	指揮法Ⅰ	1・2・3・4（前）	1			○				1							
	作曲法演習Ⅰ（編曲法を含む）	1・2（前）	1					○		1							
	作曲法演習Ⅱ（編曲法を含む）	1・2（後）	1					○		1							
	音楽理論Ⅰ	2・3（前）	1			○				1							
	音楽理論Ⅱ	2・3（後）		1		○				1							
	現代音楽研究	3・4（前）		2		○				1							
	音楽史Ⅰ（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む）	1・2（前）	2			○				1							
	音楽史Ⅱ	1・2・3（後）		2		○				1							
	日本伝統音楽研究	2・3（前）	2			○				1							
	民族音楽特別研究	4（後）	2			○				1							
	作曲特別研究	4（後）	2			○				1							
	作曲研究	1・2・3（後）	2			○				1							
	音楽教育学特殊講義	2・3（前）	2			○					1						
	音楽教育学研究法	2・3（前）	2			○				1							
	音楽教育特別研究	4（後）	2			○				1	1						
	小計（41科目）	—	—	15	44	0	—	—	—	3	2	0	0	0			
	美術教育専修	絵画基礎表現	1・2（前）	1			○				1						
		ドローイング研究	2・3（後）		1		○				1						
		造形計画演習	1・2・3（前）	1	1				○		1						
		絵画応用表現Ⅰ	2・3（前）	1	1		○				1						
		絵画応用表現Ⅱ	3・4（後）		1		○				1						
絵画理論		1・2（後）		2		○				1							
現代造形表現論（映像メディア表現を含む）		1・2・3・4（前）	2	2		○				1							
版表現Ⅰ		1・2・3・4（前）		1		○				1							
版表現Ⅱ		1・2・3・4（後）		1		○					1						
彫塑Ⅰ		1・2（前）	1	1		○											
立体造形		2・3（後）	1	1		○											
視覚伝達デザイン（映像メディア表現を含む）		1・2（後）	2	2		○				1							
基礎構成		1・2（前）	2	2		○				1							

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
美術 教育 専修	図学	1・2 (前)		2		○			1							
	生産デザイン	2・3・4 (後)		2		○			1							
	環境デザイン	2・3・4 (後)		2		○			1							
	プランニング	1・2 (前)		2		○			1							
	プレゼンテーション	2・3・4 (後)		2		○			1							
	木材工芸 I	1・2 (前)	1	1		○			1							
	木材工芸 II	2・3 (前)		1		○			1							
	金属工芸 I	1・2 (前)	1	1		○			1							
	金属工芸 II	2・3 (後)		1		○			1							
	各種工芸	1・2・3・4 (後)		1		○			1							
	工芸文化論	1・2 (前)		2		○			1							
	工芸理論	2・3・4 (後)		2		○			1							
	陶芸	2・3 (後)		2		○										兼1
	美術理論	1・2 (前)	2	2		○				1						
	芸術批評論	2・3・4 (後)		2		○				1						
	美術史 I (鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む)	1・2 (前)	2	2		○				1						
	美術史 II	2・3・4 (後)		2		○				1						
芸術史研究	2・3・4 (前)		2		○				1							
小計 (31科目)	—		17	47	0		—		1	3	0	0	0			
コース 専門 科目	体操	1・2 (前)		1		○			1							
	陸上	1・2 (前)		1		○			1							
	球技 I	1・2 (前)		1		○										兼1
	球技 II	1・2 (前)		1		○										兼1
	球技 III	1・2 (後)		1		○			1							
	球技 IV	1・2 (後)		1		○				1						
	ダンス	1・2 (前)		1		○				1						
	武道 I	1・2 (前)		1		○				1						
	水泳	1・2 (前)	1			○			4	4						
	スキー	1・2 (後)		1		○			4	4						
	体育原理	2 (後)		2		○				1						
	体育経営管理学	2 (後)		2		○			1							
	体育社会学	2 (前)		2		○				1						
	体育心理学	3 (前)		2		○										兼1
	体育心理学実験	3 (後)		1				○								兼1
	身体運動学 (運動方法学を含む)	3 (前)	2			○			1							
	身体運動学実験	3 (後)		1				○	1							
	舞踊概論	1・2・3・4 (後)		2		○				1						
	野外運動学概論	1 (前)		2		○			1							
	野外運動学実習	1・2・3・4 (前)		1				○	4	4						
	解剖・人体生理学 I	1 (前)		2		○			1							
	解剖・人体生理学 II	1 (後)		2		○			1							
	運動生理学	2 (前)	2			○				1						
	運動生理学実験	2 (後)		1				○	1	1						
	栄養学	2・3 (前)		2		○			1							
	衛生学 (公衆衛生学を含む)	1 (前)	2			○										兼1
	地域保健学	1 (前)		2		○										兼1
	救急処置看護法及び実習	2・3 (前)	1					○								兼1
	精神保健学	2 (前)	2			○										兼1
	発育・発達	2 (後)		2		○				1						
学校保健管理 (小児保健・学校安全を含む)	2 (前)	2			○				1							
健康診断実習 I	1・2・3・4 (前)			1				○	4	4						
健康診断実習 II	1・2・3・4 (後)			1				○	4	4						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	小計 (33科目)	—	12	37	0	—			4	2	0	0	0	
コース専門科目	木材工学	1 (前)		2		○								兼1
	木材加工基礎実習	1 (前)	1			○		○						兼1
	木材工芸Ⅱ	1 (後)		1		○			1					
	木工設計製図	1 (前)	1			○				1				
	金工設計製図	1 (後)	1			○				1				
	金属工学	1 (前)		2		○				1				
	材料加工学	1 (後)		2		○				1				
	金属加工実習Ⅰ	2・3 (前)	1					○		1				
	金属加工実習Ⅱ	2・3 (後)	1					○		1				
	機械工学Ⅰ	1 (前)		2		○				1				
	機械工学Ⅱ	1 (後)		2		○				1				
	機械基礎力学	2 (前)		2		○				1				
	機械工学演習	2 (後)		2			○			1				
	機械基礎実習Ⅰ	2 (前)	1					○		1				
	機械基礎実習Ⅱ	2 (後)	1					○		1				
	機械実習	3 (前)		1		○				1				
	電磁気学	1 (前)		2		○				1				
	電気回路	1 (後)		2		○				1				
	電子工学概論	2 (前)		2		○				1				
	電気応用概論	2 (後)		2		○				1				
	電気基礎実習	2 (前)	1					○		1				
	電気工学実習	2 (後)		1				○		1				
	電子工学実習	3 (前)	1					○		1				
	電気応用実習	3 (後)		1				○						兼1
	植物学	2 (前)		2		○				1				
	栽培実習	1 (前)	1					○						兼1
	情報概論Ⅰ	1 (前)		2		○				1				
	情報概論Ⅱ	1・2・3 (後)		2		○					1			
	論理回路	1・2・3 (後)		2		○				1				
	生活情報演習Ⅰ	2・3・4 (前)		2			○			1				
	生活情報演習Ⅱ	2・3・4 (後)		2			○			1				
	計算機実習Ⅰ	2 (前)	1					○		1				
	計算機実習Ⅱ	2 (後)	1					○		1				
	論理回路実習	2・3・4 (後)		1				○		1				
小計 (34科目)	—	—	12	39	0	—			2	2	0	0	0	
家政教育専修	家庭経営学概論(家族関係を含む)	1・2 (前)	2			○			1					
	生活学概論	1・2 (後)	2			○			1					
	家庭経済学	2・3 (前)		2		○			1					
	家族関係論	2・3・4 (前)		2		○			1					
	家庭簿記論	3・4 (後)		2		○			1					
	衣生活論	1 (前)	2			○			1					
	被服材料学	1・2 (前)		2		○			1					
	被服学実習	2 (前)	2					○						兼1
	被服科学実験	2・3 (前)		2				○	1					
	応用被服材料学	1・2・3 (後)		2		○			1					
	食物学概論(栄養学・食品学を含む)	1・2 (前)	2			○			1					
	食品加工貯蔵学	1・2・3・4 (後)	2			○			1					
	調理学実習	2 (後)		2				○	1					
	食品科学実験	2・3 (前)		2				○	1					
	調理科学実験	3 (前)		2				○	1					
	住居学概論 (製図を含む)	1・2 (前)	2			○			1					
	住居設計・製図	2・3 (前)		2		○			1					
住環境論	2・3 (後)		2		○			1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
コース 専門科目	住生活論	2・3 (後)		2		○			1						兼2 兼1 兼1	
	住居学演習	2・3 (後)		2			○		1							
	保育学(実習及び家庭看護を含む)	3・4 (後)	2			○										
	家庭電気・機械	1・2・3・4 (後)		2		○										
	情報処理	2・3・4 (前)		2		○										
	小計 (23科目)	—	16	30	0	—			2	1	0	0	0			
	英語 教育 専修	英語学概論	3・4 (後)	2			○				1					兼1
		英語史概説	1 (後)		2		○			1						
		言語学概論	1 (前)		2		○				1					
		英語発音法	1 (前)		2		○			1						
		英文法演習	2 (前)		2			○		1						
		英語学演習	3・4 (後)		2			○		1						
		英語学特殊講義 I	1・2・3・4 (前)		1		○									
		英米文学史 II	1・2・3 (後)		2		○				1					
		英米文学演習 I	1 (前)		2			○		1						
		英米文学演習 II	1・2・3 (後)		2			○		1						
		英米文学講読	3・4 (前)		2		○			1						
		英米文学講義	3・4 (後)		2		○				1					
		英語ライティング演習	2 (前)	2				○			1					
		英語スピーチ演習	2・3 (前)		2			○				1				
		英語会話	1 (前)	2			○						1			
		異文化理解	3・4 (後)	2			○				1					
	異文化間コミュニケーション	3・4 (前)		2		○				1						
	日英対照言語学	2・3 (後)		2		○				1						
	英語教育研究法	2・3 (前)		2		○			1							
	小計 (19科目)	—	8	29	0	—			3	2	1	0	0			
	障害児 教育 コース	特別支援教育と障害児福祉	2・3・4 (後)		2		○			1						兼1
知的障害児心理学 I		2・3・4 (前)	2			○				1						
知的障害児心理学 II		2・3・4 (後)	2			○				1						
肢体不自由児心理学		2・3・4 (後)	2			○				1						
障害児病理学		2・3・4 (後)	2			○										
障害児心理学演習		3 (前)		2			○		1	1						
知的障害児教育課程論 I		1 (前)	2			○			2							
知的障害児教育課程論 II		1 (後)	2			○			2							
肢体不自由児教育課程論		1 (前)	2			○				1						
障害児指導法		2・3・4 (後)	2			○			1							
障害児教育学演習		3 (前)		2			○		2	1						
障害児教育研究法		3 (前)		1		○			1	1						
視覚障害児教育概論		2・3・4 (前)	1			○										
聴覚障害児教育概論		2・3・4 (後)	1			○										
病弱児教育概論		2・3・4 (後)	1			○				1						
重複障害児教育概論		2・3・4 (前)	1			○			1							
障害児教育教材研究		3 (後)		1		○			1							
特別支援教育コーディネーター概論		2・3・4 (後)	1	1		○			1							
教育実習 (特別支援学校) (事前・事後指導1単位を含む)	3 (前)	3	3			○		1								
応用教育実習 (特別支援学校)	4 (前)		3			○		1								
小計 (20科目)	—	24	15	0	—			5	2	0	0	0				
幼児 教育 コース	現代幼児教育論	3 (前)	2			○			1	1					兼5	
	継続観察実習	2 (後)	2				○		1	1						
	保育思想の研究	3 (後)		2		○				1						
	保育実践論研究	3 (後)		2		○			1							
	幼児教育研究第一	4 (前)	2			○			1	1						
幼児教育研究第二	4 (後)	2			○			1	1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	小計 (6科目)	—	8	4	0	—			1	1	0	0	0	
インターンシップ	インターンシップ	2・3 (前)		1					13					
	小計 (1科目)			1		—			13	0	0	0	0	
卒業論文	卒業論文	4 (通)	4						56	48	1			
	小計 (1科目)	—	4						56	48	1			
計		—	245	797	0	—			56	48	3	1	0	
学位又は称号		学士 (教育学)			学位又は学科の分野			教育学						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
全学共通科目36単位、学部入門ゼミ2単位、専門科目85～93単位、選択科目 (全学共通教育科目・専門科目) 2～10単位、合計133単位を修得すること。								1学年の学期区分			2学期			
								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			90分			

授 業 科 目 の 概 要				
(教育学研究科教育実践創成専攻)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備 考	
共通基礎科目	教育課程の編成及び実施に関する領域	カリキュラムの見方考え方	わが国のカリキュラムの論争点およびその歩みをおさえ、開発の新たな動きを検討、確認する。また、カリキュラムを支える思想と構造を明確にし、その編成や評価について検討を加える。さらに、今日的課題にカリキュラムはどう応えていくかなどを明確にした上で、それらの知見を用いて諸外国のカリキュラムの事例分析、特色ある学校づくりを目指すカリキュラムの事例分析、山梨県内の小中高のカリキュラムや連携協力校のカリキュラムを検討し、カリキュラムの見方、考え方を修得する。	担当者： (研究者教員) 堀(原田) 中村 (実務家教員) 嶋田
	カリキュラムのマネジメント	教育の今日的課題に応えることができるカリキュラムマネジメント力を育てるために、焦眉の教育課題や地域の実態把握、子ども理解、カリキュラムマネジメントの要件などについて講義する。学習指導要領のもと、特色ある学校づくりや個に応じた指導に向けて適切にカリキュラムを計画し、実行し、評価し、改善しうるために必要な資質・能力を形成・獲得する。また、校内研修の中で具体的にカリキュラムマネジメント力を機能させる場合の課題や方法などについて理解を深めるとともにその力量を形成する。	担当者： (研究者教員) 堀(原田) 長瀬 (実務家教員) 仙洞田	
教科等の実践的指導法に関する領域	授業研究マネジメント論	日本や諸外国の授業研究の歴史的・文化的考察を行う。また、実際の授業プロトコルや映像資料をもとに授業記録の作成によって、授業分析・授業研究を実施する。さらに、校内研究会を組織し、マネジメントする研究主任の実務について考察する。連携協力校の校内研究会をもとに、授業観察力や授業実践力を向上するための校内研究会のあり方を探る。	担当者： (研究者教員) 中村 (実務家教員) 早川	
	授業創造の心理学	現在の教科教育において、学習意欲の喚起と学力の向上が課題となっている。本来、学力と学習意欲は不可分なものであり、知識が学習者の認知構造に沿ったものであれば、学力は定着すると共に、学習に対する内発的動機も高まる。この授業では認知のメカニズムや動機のメカニズムに関する心理学の知見に基づき、具体的に教科の内容を取り上げて、学習意欲を喚起し、学力の定着が図られるような学習指導案の作成を試みる。また、受講者が実際の教室で実践した授業について参加者で検討を加える。	担当者： (研究者教員) 進藤 堀(原田) 中村	
生徒指導及び教育相談に関する領域	子ども援助の実践的課題	本授業においては、学校における子ども援助を考察する理論的視座を獲得すること、および援助実践を省察する力を育成することを目的とする。不登校・いじめ・発達障害という学校臨床心理学的援助の今日的トピックについて、基礎理論学習と事例研究を通して、①学校における子ども援助の基本的枠組みを学習し、②子ども援助にかかわる当事者の「声」をボトムアップ式に見直すことで学校における諸問題の経験的理解を深め、③援助実践事例を省察的に検討していく。	担当者： (研究者教員) 谷口 (実務家教員) 嶋田 雨宮	
	教育相談フィールドワーク論	教育相談の技法と教育相談現場がかかえる今日的課題について、基礎的な知識を習得した上で、あらたな教育相談体制の実践的プランニングを行うことを目的とする。授業では、教育相談のロールプレイを交えながら教育相談の技法の基礎を体得すると同時に、相談事例の検討を行う。また、フィールドワークの理論と技法を演習形式で学習した後、グループに分かれてフィールドワークを行い、現場データから学校教育相談がかかえる実践的課題を把握し、今後の在り方を考察する。	担当者： (研究者教員) 谷口 酒井	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学級経営及び学校経営に関する領域	学校組織経営論	学校組織改革は、1990年代後半以降の教育改革における中心的論点の一つとされてきた。本授業では、学校組織および学校経営をよりよく理解するための基本的な知識や方法を、演習や討議を通じて修得することを目指す。とりわけ近年の教育改革で焦点づけられてきた諸論点や国際的な動向といった新しい知識と、学校づくり、自律的学校経営、学校改善などの旧来の議論の両方を視野に入れながら、文献や報告書等から得られる形式知を実践で培われてきた暗黙知と結び付けて具体的な経営実践に反映するビジョンを各自が持てるような授業としたい。	担当者： (研究者教員) 平井 (実務家教員) 仙洞田
	学校改善論	学校の組織・経営の実態は多様であり、それを改善していくための方途にも一つの正解があるわけではないことから、組織成員には自組織の課題を明確化し、改善していく方途を自ら開発することが求められる。本授業では各自がそのような力量を習得することを目指し、事例のプレゼンテーションと討議を中心とした演習を行う。現に所属する職場の客観的把握や組織問題の深い分析を行うには多くの困難が伴うため、事例の記述・プレゼンに先立ち、事例を組織的観点から理解する方法や事例の記述法に関する講義も用意する。	担当者： (研究者教員) 平井 (実務家教員) 瀧田
	現代学校論	学校教員が学校実践を進取的に切り拓いていくためには、まず現代学校が置かれている状況、その歴史的特色・社会的機能・法制的枠組みを理解していることが必須である。本授業では、現代学校の歴史的構造を明らかにしつつ、学校の機能と位置づけ、学校改革論の諸相について整理された認識を習得することを目的とする。	担当者： (研究者教員) 寺崎 (実務家教員) 雨宮
	現代教員論	前期に開講された「現代学校論」の内容を踏まえ、学校教員が今日置かれている状況を理解し、教員の社会的役割、教員倫理、教員にもとめられている専門的力のあり方について明らかにする。特に、文部科学省「義務教育に関する意識調査 報告書」(平成17年11月)・「平成17年度教育職員に係る懲戒処分等の状況について」・NHK放送文化研究所「中学生・高校生の生活と意識調査」(2002年実施)や教育職員病気休職者数等の調査データを活用し、典型的事例の提示と分析に留意する。	担当者： (研究者教員) 寺崎 (実務家教員) 雨宮 瀧田
独自共通科目	学校危機管理論	近年、学校はさまざまな危機管理上の問題への対応を迫られるようになった。本授業はそうした課題への対応能力を、具体的な事例に即した演習を通じて磨いていく。事例を分析するに当たっては、学校事故判例や統計資料、研究論文、行政文書など多様な資料を検討するとともに、現職教員学生の実践経験をプライバシーに配慮しつつ活用していく。また、学校危機管理の問題を構成する複雑な要因を理解するために、学際研究として取り組まれているリスク学などの現代的理論基盤もあわせて学ぶこととする。	担当者： (研究者教員) 平井 寺崎 (実務家教員) 瀧田 仙洞田
	科学的リテラシー教育革新論	広義の「科学」的リテラシー形成のあり方を明らかにする。ここで言う広義の「科学」的リテラシーとは、たとえばPISA調査が対象とする学力であり、数学的リテラシー、いわゆる理科的リテラシー、言語リテラシーの三つから構成される。これらのリテラシー概念を明らかにする。その際、PISA調査の枠組みや問題の分析を行う。また、数学的・理科的・論理的な思考力・表現力の育成における授業のあり方を検討し、リテラシー形成のための授業設計を行う。授業設計では、小学校と中・高校とに分けて行う。	担当者： (研究者教員) 中村 堀(原田) 長瀬 (実務家教員) 早川
発展科目	子どものエンパワメント論	「社会性の欠如」「すぐキレル」「活気がない」「将来展望のなさ」など、昨今の子どもをめぐる問題は枚挙にいとまがなく、「生きる力」育成に代表される児童生徒のエンパワメントが教育的課題となっている。本授業では、生きる力のひとつとしての「ソーシャルスキル」と生き方支援としての「キャリア教育」に焦点をあて、演習形式による理論に基づく教育プログラム検討と、子どものQuality of school life(学校生活の質)維持・向上を目指した新たな教育プログラム開発・実践を行う。	担当者： (研究者教員) 谷口 進藤

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	山梨の学校改革	授業では、山梨県の学校の置かれた多様な現状と課題を整理しつつ、それらを超えて、新しい学校改革の方向性を探求することを目的とする。各回の授業では理論と実践の融合を意識し、授業者による新しい提案を受けて展開される活発な討論の積み重ねによって、創造性あふれる学校経営・教育実践を創発するシーズができるだけ多く蓄積されることを目指す。	担当者： (研究者教員) 寺崎 平井 (実務家教員) 雨宮 瀧田 仙洞田
	学校・教員評価論	学校評価、教員評価の目的、機能を理解すると共に、現在行われている自治体や学校の取り組み状況を調べ、最新の動向を知る。そして、そのメリット・デメリットについて考察する。その際、学校管理職などを招いて生の声を聞く機会を設けることなどを通して、どのように評価が行われているのかについて具体的な方法やそれがもたらしている結果を対照する。このような学習を通して、現実の学校で生じている評価の問題点やそれを乗り越える方法について検討する。	担当者： (研究者教員) 平井 進藤 (実務家教員) 嶋田 仙洞田
	理数学力評価論	理数に関する学力論について理論的な側面と実証的な面の両面から考察する。まず、理数教育における学力構造を明らかにする。また、TIMSSやPISAなどの国際調査で求められている学力や日本の全国学力・学習状況調査の特に「活用に関する問題」が求める学力についての知見をまとめる。評価に関して、算数・数学科や理科の評価問題を作成し、問題のねらいや評価する目標について検討する。評価の観点として挙げられている「知識・技能」「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」からどのような評価方法があるかを検討する。	担当者： (研究者教員) 堀(原田) 中村 進藤
	理数学習教材開発論	授業実践における学習教材のあり方や重要性について考察する。算数・数学科や理科の学習教材について日本や諸外国の教科書分析を通して、その現状を把握し、授業実践における学習教材の重要性について考察する。また、算数・数学科や理科の学習教材について、効果的な学習教材が具備すべき諸条件について、グループ討議などで検討する。実際に、算数・数学科や理科における効果的な学習教材を開発し、実際の授業実践での活用を図っていく。開発した学習教材を用いて、模擬授業を行い、その効果や課題を検討する。	担当者： (研究者教員) 堀(原田) 中村 (実務家教員) 早川
	言語学習開発論	現在の日本の学校教育において、言語によるコミュニケーション能力の養成が課題とされている。また、外国語によるコミュニケーション能力を早期から養成するため、小学校教育に英語が導入されようとしている。第二言語の習得は、第一言語のことば力を前提とするものである。本授業では、ことばのメカニズムを、理論言語学および応用言語学の観点から分析していくとともに、小学校における英語教育の内容を取り上げ、様々な実践例を検討する。併せて、ことば力を養成する授業案の作成を試み、実際の教室で実践していく。	担当者： (研究者教員) 長瀬 寺崎 進藤
課題研究	課題研究 I	連携協力校の課題に即した教材開発、カリキュラム開発、授業実践評価と同時に校内研究会の組織化と実施、授業研究力・授業力の向上を目指した校内研究会への参画、TTへの協力参加などを通して、学校教育における今日的な教育課題を探り、解決に向けての方向性を考察する。まず、学校教育における教材開発、カリキュラム開発、授業実践などの教育課題を整理する。特に、連携協力校での課題と密接に関連する課題を検討する。次に、連携協力校の教育課題に対する支援案を作成し、実習 I (課題発見実習) として実践する。それぞれの協同実践に対する意見交換、リフレクションを行う。	担当者： (研究者教員) 堀(原田) 寺崎 長瀬 中村 進藤 谷口 平井 (実務家教員) 嶋田 早川 雨宮 瀧田 仙洞田

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	課題研究Ⅱ	<p>連携協力校に即した学校実践に関するフィールドワーク、学校経営・学級経営調査、実態調査・ニーズ調査、課題解決的協同実践プログラムの開発、校内研究会への参画などを通して、学校教育における今日的な課題を探り、解決に向けての方向性を考察する。まず、学校経営・学級経営、地域実態・地域ニーズ、校内研修会などの教育課題を整理する。特に、連携協力校での課題と密接に関連する課題を検討する。次に、連携協力校の教育課題に対する支援案を作成し、実習Ⅰ（課題発見実習）として実践する。それぞれの協同実践に対する意見交換、リフレクションを行う。</p>	<p>担当者： （研究者教員） 堀（原田）寺崎 長瀬 中村 進藤 谷口 平井 （実務家教員） 嶋田 早川 雨宮 瀧田 仙洞田</p>
	課題研究Ⅲ	<p>連携協力校との協同実践プログラムに関し観察・調査・実践のプランニング及び結果のプレゼンテーションと討議を行う中で、学校教育における今日的な課題を探り、解決に向けての方向性を考察し、自己省察を行う。まず、連携協力校の課題を踏まえた支援案を作成し、実習Ⅱ（課題達成実習）として実践する。それぞれの協同実践に対して意見交換、討議、リフレクションを行う。次に、実践をレポートとしてまとめ、報告会において、発表、意見交換、討議を行う。</p>	<p>担当者： （研究者教員） 堀（原田）寺崎 長瀬 中村 進藤 谷口 平井 （実務家教員） 嶋田 早川 雨宮 瀧田 仙洞田</p>
実習	実習Ⅰ （課題発見実習）	<p>[ストレートマスター] 1年次に連携協力校において履修する。連携協力校で実習しながら教育課題の解決を図る中で、教師としての使命感・自覚を身に付けるとともに、子ども理解に基づいて授業計画力、授業指導力、授業分析力、協働力を養う。集中型実習では、児童・生徒の実態把握、授業参観、授業実践、授業分析を行い、校内研究会での提案を行う。分散型実習では、研究推進委員会や校内研究会の運営実務を参観し、校内研究会の授業、協議会などの記録・分析、研究紀要の作成などの支援を行う。</p> <p>[現職教員学生] 1年次に連携協力校において履修する。指導的立場の教員を育成するため、学校において授業実践や学校運営を支援し、教育実践リーダー及び学校運営リーダーとしての子ども理解に基づいて即応力（授業計画力、授業指導力、授業分析力など）、企画力、協働力を養う。集中型実習では、児童・生徒、地域の実態把握、授業参観、授業実践、授業分析を行い、校内研究会での提案を行う。分散型実習では、地域や学校の実態を知り、地域、PTAなどの協力連携のあり方、研究推進委員会や校内研究会の運営のあり方、学校組織、学校経営、学年・学級経営のあり方などの支援を行う。</p>	<p>担当者： （研究者教員） 堀（原田）寺崎 長瀬 中村 進藤 谷口 平井 （実務家教員） 嶋田 早川 雨宮 瀧田 仙洞田</p>
	実習Ⅱ （課題達成実習）	<p>[ストレートマスター] 2年次に連携協力校において履修する。「実習Ⅰ（課題発見実習：ストレートマスター）」を踏まえて、継続して連携協力校において実習しながら課題を遂行する中で、教師としての使命感・自覚を身に付ける。子ども理解に基づいて即応力（授業計画力、授業指導力、授業分析力など）、企画力、協働力を養う。集中型実習では、教育課題の解決に向けた授業設計し、実践、評価する。また、授業実践について連携協力校の校内研究会と関連した課題について授業提案を行う。分散型実習では、地域や学校の実態を知り、地域との協力連携のあり方、研究推進委員会や校内研究会の運営のあり方、学年・学級経営のあり方などの支援を行う。</p> <p>[現職教員学生] 2年次に連携協力校において履修する。「実習Ⅰ（課題発見実習：現職教員学生）」を踏まえて、引き続き継続し、連携協力校において指導的立場の教員を育成するため、学校において学校の授業・教育研究を支援し、教育実践リーダー及び学校運営リーダーとしての子ども理解に基づいて策定・企画力、協働力、リーダーシップ力、コーディネート力を培う。分散型実習において、地域や学校の実態に即した地域、PTAなどの協力連携のあり方、研究推進委員会や校内研究会の運営のあり方、学校組織、学校経営、学年・学級経営のあり方などの課題に対する支援策を策定・企画し、学校組織としての支援体制の確立への一助を行う。</p>	<p>担当者： （研究者教員） 堀（原田）寺崎 長瀬 中村 進藤 谷口 平井 （実務家教員） 嶋田 早川 雨宮 瀧田 仙洞田</p>